企業情報

2024年1月31日時点

ミッションステートメント

To Mobilize the World's Data（世界のデータをモビライズ）

社名

創業	2012年
創業者	Thierry Cruanes、Benoit Dageville
CEO	Sridhar Ramaswamy
従業員数	全世界で7,000人以上
拠点	ボーズマン、アムステルダム、ベルリン、デンバー、ドバイ、ロンドン、ニューヨーク、パリ、サンマテオ、ソウル、シドニー、テルアビブ、東京、トロントなど、世界45か所以上に拠点を展開

SNOWFLAKEについて

Snowflakeは、Snowflakeデータクラウドを通じてあらゆる組織がデータをモビライズできるよう支援します。Snowflakeのお客様は、データクラウドを活用して、サイロ化したデータの統合、データの発見と安全な共有、データアプリケーションの推進、多様な人工知能（AI）/機械学習（ML）ワークロードや分析ワークロードの実行を実現しています。データやユーザーがどこに存在するかに関係なく、Snowflakeは複数のクラウドと地域にまたがって単一のデータエクスペリエンスを提供します。さまざまな業界の何千ものお客様（2024年1月31日時点で、2023年のForbes Global 2000（G2K）[1]の691社を含む）が、Snowflakeデータクラウドによってビジネスを強化しています。詳しくは、snowflake.comをご覧ください。

データクラウド

データクラウドは、組織のビジネスにとって最も重要なデータやアプリケーションと組織をつなぐグローバルなネットワークです。組織内のサイロの解消から、パートナーや顧客とのコンテンツコラボレーション、さらには外部データとアプリケーションの統合による新たなインサイトの獲得まで、さまざまな可能性を実現します。

データクラウドを支えているのは、Snowflakeの統合されたシングルプラットフォームです。そのユニークなアーキテクチャにより、実質的にあらゆる規模でグローバルにビジネスを接続し、データとワークロードを集約します。また、データクラウドは、何千ものデータセット、サービス、データアプリケーション全体の共有やコラボレーション、収益化を容易にするSnowflakeマーケットプレイスとも連携しています。そのため、常にアクティブであり、成長を続けています。

お客様は、Snowflakeのプラットフォームを利用して、AI/ML、アプリケーション、コラボレーション、サイバーセキュリティ、データエンジニアリング、データレイク、データウェアハウス、ユニストアなど、多くの重要ワークロードを実行できます。

データクラウドのエコシステム

お客様：Snowflakeは、スタートアップから最大規模のエンタープライズまで、以下を始めとする世界中の何千もの組織によって利用されています。Adobe、Albertsons Companies、AT&T、Be The Match、Capital One、Deliveroo, Doordash、HP、Instacart、JetBlue, Kraft Heinz、Mastercard、McKesson、Micron、NBC Universal、Nielsen、Novartis、Okta、PepsiCo、Pitney Bowes、Siemens、University of Notre Dame、US Foods、Western Union、Yamahaなど

パートナー：Snowflakeは、以下を含む多数のパートナーと戦略的連携を結んでいます。Accenture、Amazon Web Services（AWS）、Deloitte、Ernst & Young、Hakkoda、Infosys、LTIMindtree、Microsoft Azure、NVIDIA、phData Salesforce、Slalomなど

買収および戦略的投資：Snowflakeの目標は、データのモビライズへのコミットメントを実践するさまざまな企業とともにエコシステムへの投資を行うことによってイノベーションを促進し、お客様のためにデータクラウドの機会を広げることです。これまでSnowflakeでは、Applica、LeapYear、Neeva、Samooha、SnowConvert、Streamlitなど、30社を超える買収を実施しました。[2]

競争上の差別化要素

Snowflakeが実現するもの

強力なプラットフォームとアーキテクチャ：Snowflakeのマルチクラスターの共有データアーキテクチャは、大量のデータを迅速かつ効率的に処理できるように設計されています。分散型のシングルクラウドプラットフォームとして機能し、40のクラウドリージョンを通じて世界中で利用できます。基盤となるクラウドプロバイダーに関係なく、Snowflakeは、Snowflake Horizonを通じて統一されたグローバルエクスペリエンスを提供します。Snowflake HorizonはSnowflakeのビルトインガバナンスソリューションで、コンプライアンス、セキュリティ、プライバシー、相互運用性、アクセス機能が一元化されており、マルチクラウド戦略とクロスクラウドアプローチをサポートします。Snowflake Horizonでは、組織がグローバルに同じデータセットにアクセスできるため、最小限の中断でフェールオーバーを実現できると同時に、クラウドやリージョンを横断してデータやアプリなどをシームレスに管理し、即座にアクションを実行できます。

Snowflake内のすべてのデータ処理能力は（1つまたは複数の）クラスターによってもたらされます。クラスターは、ほぼ無限のコンピュートリソースを持ち、実質的にどのような並列処理やスケーリングにも対応できます。Snowflakeは、従来型のオンプレミスのデータプラットフォームやクラウドデータプラットフォームと比較して、わずかな時間でクエリやタスクを処理できます。また、ほぼ瞬時にスケールアップやスケールダウンできる伸縮性も備えているため、必要なときに必要なパフォーマンスを確保できます。さらに、セルフマネージドであるため、インフラストラクチャ、最適化、可用性、データ保護などを自動で処理できます。Snowflakeのコンピュートとストレージの料金は、秒単位の従量課金制です。そのため、保管しているデータの量と使用したコンピュート処理の量に対してのみ料金が発生します。

変革的なデータクラウド：Snowflakeデータクラウドは、何千もの組織がデータをモビライズできるグローバルなネットワークを提供します。データクラウドを利用する組織では、実質的にどれだけ大量の構造化データ、半構造化データ、非構造化データでも統合できるようになり、組織内だけでなくパートナー、サプライヤー、顧客からなるエコシステムにまたがってデータの安全な共有が実現します。また、データクラウドでは、新製品のより迅速な開発、生成AIを活用したアプリとMLモデルの構築による情報に基づいたビジネス上の意思決定、鮮度の高いデータドリブンなインサイトによるイノベーションの推進、Snowflakeマーケットプレイスを介したデータとアプリの収益化が可能になります。

さまざまなワークロードの実行：Snowflakeのマルチクラスターの共有データアーキテクチャは、実質的にあらゆるワークロードに対応できるように設計されています。以下のワークロードはその一部です。

AI/ML：Snowflake Cortexを使用して、業界をリードする大規模言語モデルとMLモデルの安全な構築と展開

アプリケーション：運用オーバーヘッドのないデータ集約型アプリケーションの開発、配布、スケーリング

コラボレーション：すべてのクラウドにまたがるデータ、データサービス、アプリケーションの発見、アクセス、収益化

サイバーセキュリティ：統合されたデータ、ほぼ無制限の可視性、強力なアナリティクスによる組織の保護

データエンジニアリング：SQLまたはPythonでの強力なストリーミングとバッチデータパイプラインの構築

データレイク：管理、最適化されたストレージによる柔軟なアーキテクチャパターンの大規模展開

データウェアハウス：業界をリードする価格性能比とニアゼロメンテナンスでデータアナリティクスを加速

ユニストア：シングルプラットフォームでトランザクションデータと分析データを統合する最新のアプローチを活用した、インサイトの推進

幅広い業界をサポート：Snowflakeでは、さまざまな業界や業種に向けて、組織のデータ戦略の強化とイノベーティブなソリューションの提供のための支援を行っています。以下の領域はその一部です。

広告・メディア・エンターテイメント：ID、インサイト、アクティベーション、効果測定にデータを活用し、プライバシーを強化した広告と優れた顧客サービスの未来を促進します

金融サービス：顧客エクスペリエンスの変革、リスク管理とビジネスワークフローの強化により、将来のFinTechプラットフォームを構築します

ヘルスケア・ライフサイエンス：患者アウトカムと治療エクスペリエンスの改善、市場投入時間の短縮、臨床および運営上の意思決定を強化します

マーケティング：複雑なマーケティングテクノロジーアーキテクチャの簡素化、優れた顧客エクスペリエンスの提供、マーケティングと広告のROIを最大化します

製造：サプライチェーンのパフォーマンスを向上させ、スマートな製造を強化、コネクテッド製品から価値を生み出します

官公庁・公的機関：各機関がミッションの達成、市民へのサービス提供、リソースの活用を迅速化し、データセキュリティと規制コンプライアンスを確保します

小売・消費財：アジリティの向上、パーソナライズされたショッピングエクスペリエンスの提供、価格戦略の最適化、サプライチェーンの運営を改善します

テクノロジー：AI戦略を構築し、差別化された製品を提供しながらインフラ管理に要する時間を削減、アプリケーションの構築にもっと時間を費やすことができます

通信：カスタマーエクスペリエンスの向上、運用効率の最大化、コスト削減と新しいデータ製品の収益化で利益力を強化します

1. Forbes Global 2000のお客様の定義については、弊社の2024年度第4四半期と通期決算プレスリリースをご覧ください。
2. 2024年1月31日時点

© 2024 Snowflake Inc. All rights reserved.